

Title	「投資態度」に着目した業績悪化企業の判別
Sub Title	
Author	関憲治(Seki, Kenji) 柴田典男
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1350号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1350

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「投資態度」に着目した業績悪化企業の判別

本研究は、金融機関が与信行為を行っている取引先に対して独自に行っている格付けに役立つ判別関数を作成することを目的とした。

企業の財務データを用いて格付けを行う方法にはさまざまなものが考えられるが、その中の一つに判別関数を用いるものがある。判別関数は多変量解析の一種で、多数の変量を同時に考慮することが利点である。これまで、判別関数を用いた企業倒産の研究がわが国内外で多数行われてきた。しかし、それらの研究に対しては、理論的な背景に欠け試行錯誤的である等の批判がある。

一方、差額比率分析という手法を用いて、投資と資金繰りの観点から製造業企業の倒産原因を明らかにした研究がある。

そこで、本研究では、この差額比率分析によって明らかになった倒産原因を組み込んだ判別関数を作成することを試みた。対象は店頭公開している製造業である。業績が悪化している企業（直近10年間に少なくとも3期連続して赤字になっている企業）とそうでない企業をペアサンプリングし、上記の差額比率分析より導かれた原因を反映する項目「投資態度」と代表的な財務比率を用い、判別関数の作成を試みた。なお、使用した財務データは業績が悪化する2期前のものである。

有意な判別関数は作成可能であった。最終的には「投資態度」の他、「使用総資本回転率」、「売上債権回転日数」、「買入債権回転日数」、「正味運転資本比率」を変数として利用する判別関数を作成した。中でも「投資態度」の判別効率はその他の項目（財務比率）より高かった。今後、さまざまな母集団（特定の銀行の取引先等）に適用する中で、本研究に手を加えて行くことによって、実務で使用できる判別関数が作成できると考えている。